

年	組	番	名前
---	---	---	----

思考実験 気候変動への対策には何が必要?

Q1 環境問題について、現状と対策を整理してみよう。

(1) 「環境問題」と聞いて思い浮かべる事例を一つ挙げて、p.295-320 を参考に現状と対策をまとめてみよう。

事例	現状と対策
(例) 生物多様性	(例) 現在、約 25,000 種の野生生物の絶滅が危惧されている。生物多様性の保全に向けてラムサール条約などの条約が採択され、国際的な協議も進められている。
(例) 森林の減少	(例) 世界では毎年、日本の国土面積の 1 割以上にあたる森林が消失している。森林減少は、温暖化や砂漠化、生物多様性の減少など、さまざまな環境問題の要因になる。対策として、森林の適切な管理と持続可能な利用を促す FSC 認証制度の普及が進められている。 ↑<解説>資料集本体の「地球環境問題とその対策」(p.295-306)や「資源・エネルギーの問題」(p.313-318)などを参考に、現状と対策をまとめさせるとよい。

Q2 環境問題の解決の難しさを説明する際に、「共有地の悲劇」というモデルが用いられることがある。以下のような架空の設定を基に、「共有地の悲劇」の考え方を確認してみよう。(→ p.39【II】①、p.40【II】②)

【設定】次のような状況について考えてみよう。

①ある農村には共有の大きな牧場があり、村人たちは牧場の草を飼料として、自分の牛を放牧して生活していた。

②ある日、もっと収入を増やしたいと考えた村人 A は、放牧する牛を増やした。その結果、これまでよりも多くの牛乳や牛肉を出荷することでどんどん豊かになった。

③それを見たほかの村人は感心し、自分も豊かになると村人 A のまねをし始めた。村人たちはだんだんと豊かになったが、ほかの人に先を越されまいと牛の数をどんどん増やしたため、飼料の牧草は減り、土が露出している地面も増えてきてしまった。

(省略)

<解説>以下のような要素があるとよい。
・牛の数が増えている様子
・牧草がほとんどなくなってしまった様子
・牛がやせてきている様子
・村人が言い争っている様子、など

①ある農村には共有の大きな牧場があり、村人たちは牧場の草を飼料として、自分の牛を放牧して生活していた。

②ある日、もっと収入を増やしたいと考えた村人 A は、放牧する牛を増やした。その結果、これまでよりも多くの牛乳や牛肉を出荷することでどんどん豊かになった。

③それを見たほかの村人は感心し、自分も豊かになると村人 A のまねをし始めた。村人たちはだんだんと豊かになったが、ほかの人に先を越されまいと牛の数をどんどん増やしたため、飼料の牧草は減り、土が露出している地面も増えてきてしまった。

(1) このような状況で、あなたは牛の数を増やすだろうか。自分の選択に○を付け、理由と共に考えてみよう。

あなたの選択	選択の理由
増やす ○ 増やさない	(例) 牧場を共同で運営しているほかの村人の利益が減少するため。個人の利益だけを追い求めることで、村人たちの間で不公平感が生じ、対立することが予想される。また、長い期間で考えると、牧場全体で利益が減ってしまい、結果的に牧場全体の運営が難しくなるため。 ↑<解説>「あなたの選択」と「選択の理由」にはさまざまな答えが考えられる。「選択の理由」において、個人の利益を追求した結果、牧場全体の利益が低下してしまうことを指摘できるとよい。

(2) この農村が今後どうなるかを考え、左下の 4 コマイラストの④のイラストを描いてみよう。

(3) 「共有地の悲劇」とはどのような状況か、p.40【II】②を参考に以下の空欄を埋めてみよう。

「共有地の悲劇」とは、ある人が(A 利己的)な行動を取ることで、ほかの人々もそれと同じ行動を取り、結果的に共有地の(B 資源)が無くなり、全員にとって(C 望ましくない)状態になる、というモデルである。

(4) 共有地である牧場が機能し続けるためには、どのような方法が考えられるだろうか。

(例) 牧場の共同メンバーの合意なしに勝手に牛の数を増やさないなど、牧場を運営するためのルールを整備する。
↑<解説>何らかのルールを作る必要性を示すことができるとよい。

Q3 「共有地の悲劇」を踏まえながら、環境問題について考えてみよう。(→ p.40【III】)

(1) 環境問題に対する国際的な枠組みを作る際には、どのような点を考慮することが重要だろうか。「共有地の悲劇」や、地球温暖化への取り組みである京都議定書やパリ協定(→ p.298)を参考にしながら、枠組みを作る担当者の立場になって、考えてみよう。

【あなたの考え】

(例) 負担の公正さをめぐって対立が発生して一部の国が離脱することがないように、温室効果ガスの排出量や GDP などの明確な指標に基づき、それぞれの国に見合った削減目標を設定し、義務化していくことが望ましい。
↑<解説>より多くの国が合意に応じやすいルール作りについて言及できるとよい。その際にキーワードとして「公平」「公正」などに触れたい。また、具体的な削減目標設定の方法まで示すことができるとよい。

【他の人、グループの考え】

(省略)

<解説>他の人やグループのメンバーの意見をよく聞き、自分の考えに反映していくように促したい。

(2) 地球という「共有地」で暮らす一人の人間として、気候変動という「悲劇」を避けるために、p.295-320 も参考にしながら、自分でもできることを考えてみよう。

【あなたの考え】

(例) 環境問題の背景にある「共有地の悲劇」のモデルなどを理解し、日々の生活の中で環境に対する意識を高めることが重要である。例えば、商品を購入する際にも、環境問題への取り組みに積極的な企業の製品を購入することなどが考えられる。
↑<解説>日常における具体的な行動と、環境問題全体に対する理論の両面を示すことができるとよい。

【他の人、グループの考え】

(省略)

<解説>他の人やグループのメンバーの意見をよく聞き、自分の考えに反映していくように促したい。